幼保小の 架け橋プログラム

中間成果報告会

京都市教育委員会

目　次

１　架け橋期のカリキュラム　概要及び作成プロセス

２　実践事例

３　教師の指導・援助 及び 子供の学びの変化

４　今後の展望

3研究ブロックの架け橋期のカリキュラム 共通の視点・概要及び作成プロセスなど

【A研究ブロック】大規模な小学校とその地域にある入学者の多い就学前施設3園

〈共通の視点〉　「目指す子ども像」「子どもたちの経験・遊び/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構想等」「思考力を育む先生の関わり」「思考力を育む環境構成」「子どもの交流」

〈概要及び作成プロセス〉 幼保小とも研究主題に明示された「思考力」に着目して、「共通の視点」を作成。「目指す子ども像」では、それぞれ1年間の発達の視点を大きく捉え、作成している。また、思考力を育む教師の関わりや環境構成に着目して、幼保では、小学校での学習の土台となる人間関係の育ちの視点も絡めて作成している。作成の手順としては、幼小の5歳児担任や1年生担任である連携主任が回を重ねて検討したり、幼保同士の管理職や連携主任が話し合い、幼保での言葉の使い方の違いを知り、言葉を吟味しながら作成している。

1年間の発達の視点

思考力

思考力を育む教師の関りと環境構成

幼小の連携主任
幼保小の管理職
言葉の吟味

Aブロック５歳児

	4　5　6　7　8　9　10　11　12　1　2　3				
目指す子どもの姿	遊びのおもしろさ、楽しさを感じながら好きなことを満足するまで楽しむ 自分と向き合って考える 友達と協力して考える 互いの考えを尊重し、共に考える 友達と協同して考えを広げ、深める 小学校に期待をもつ				
子どもたちの経験・遊び/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等	◎園生活の中で自分の好きな遊びをみつけて、満足いくまで十分に取り組む	◎友達の様々な思いに気づき、友達の違う思いと出し合って葛藤する ◎自分の思いに向き合い、試したり工夫したりする	◎好きな遊びを友達と一緒に楽しみ、アイデアを出し合って遊びを発展させたり広げていったりする	◎友達と互いの考えを認め合い、折り合い、協力しあって共に遊びをすすめる	◎自分の意見も出しながら友達の意見を聞き、協同して遊びを進める ◎小学校に期待をもった生活をする
思考力を育む 先生の関わり	◎子どもの思いを感じ取ったり引き出したり共に探ったりして、興味のあることを見つける ◎好きな遊びを十分に楽しめるようにする	◎相手の思いを代弁し、様々な思いを感じ取る ◎子どもの多様な考えを受け止める ◎子どもが自分で考えるように見守り、肯定的に受け止める	◎意見を言い合える機会をもち、自分の思いを言葉にして伝えられるようにする ◎アイデアが実現していけるような方法を先生も共に考える	◎意見を聞き合える機会をもち、自分の思いと共に友達の意見に納得して折り合えるようにする	◎楽しいことも悲しいことも様々な感情を共有することで深めていけるようにする ◎小学校に期待をもてるようにする
思考力を育む 環境構成	◎多様な遊びが実現できるようにする。 ◎遊びをじっくりと楽しめる時間と空間を用意する。	◎自分なりにじっくりと試したり工夫したりできるようにする空間や時間を用意する	◎子どもたち自身が環境構成に参画できるような時間と空間を確保する	◎様々なアイデアが長期的な視点で実現できるような子どもの時間と空間を確保する	◎自分と友達の成長を感じ、小学校への期待をもてるような環境をつくる
子どもの交流	御所で一緒に活動（場の共有）　あきのあそび　学校探検				

Aブロック１年生

	4　5（合科的）	6　7（合科的・関連的）	8　9　10　11　12	1　2　3
目指す子どもの姿 遊びや学びのプロセス	感じる　つながる　自分から　未来を切りひらく子ども 先生や友だちとの関係を築く 知っている友だちから輪を広げる グループ活動を取り入れ、新たな友だち関係を築く 小集団の中で安心して自己を発揮する 行事を通して、学級の一員としての意識を高めていく １年間の自分の成長を振り返り、２年生になるという自覚をもつ 成長・自立 安心			
小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等	・知りたい、見たい、調べたい、確かめたい ・実感の伴った言葉で表す	・分析的に考える（見付ける、比べる、例える） ・相手や目的に合わせて表現内容や表現様式を考える	・創造的に考える（試す、見通す、工夫する） ・様々な事柄と関連付ける	
	（１）　活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身につけるようにする。 （２）　身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 （３）　身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。			
思考力を育む指導者の関わり	・保育者の関わり方を知り、子どもと一緒に遊び、信頼関係を築く ・やってみたい、できるようになりたいと思えるようにする	・これまでの経験から解決策を考えたり、友だちと一緒に考えたり、本で調べたりすることができるようにする	・子ども同士の考えをつなぎ、子どもとともに創造するようにする	・成長した自分に気付き、今後の自分の成長におもいや願いがもてるようにする
	うなずく・共感する・納得する・驚く・広げる・ほめる・認える　（子どもと共に）			
思考力を育む環境構成	・学びの足跡の掲示による学習のきっかけづくり ・？！☆などのマークを使用した板書 ・おもいや願いがふくらむ学習活動の展開	・二人組、グループで一緒に考える場面を設ける ・視覚的に訴える板書 ・一つ一つにじっくりと関わったり、繰り返し関わったりできるような時間を確保する	・自分との関わりの中で、「気付き　→　考え　→　行動する」ができるような場を設定したり、時間を確保したりする ・試行錯誤できるような場を設定する	・一人一人が以前の自分より向上し、成長したことに気付けるような環境をつくる
	人・もの・こととの出会わせ方を工夫する　具体的な体験や活動を行う　子どもの姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる			
子どもの交流			秋の遠所で一緒に活動する（場の共有） あきのあそびを一緒に楽しむ	５歳児を招待 ・ランドセル体験　・学校案内

【Bブロック】同一敷地内にある小・公立幼・小規模保育施設と地域にある就学前施設3園

〈共通の視点〉「ねらい」「内容」「連携（園または学校・家庭）」「すすんで学ぶ」・「楽しくかかわる」「自分でできる」（それぞれ児童・教師・環境に分化）「個別の支援」

〈概要及び作成プロセス〉同一敷地内の幼小で国立教育政策研究所の「幼小接続」の研究指定を受け、幼小で同一の研究組織を立ち上げ、育てたい3つの資質・能力「探究・ふれあい・誇り」の視点で接続期カリキュラムを作成した経緯があった。その研究を核として、地域の就学前施設3園とともに架け橋期のカリキュラムを作成するにあたり、3つの視点をわかりやすい言葉（「すすんで学ぶ」「楽しくかかわる」「自分でできる」）に変更して作成した。「9年間の学びをつなぐ」視点で作成した3つの視点の発達の姿を架け橋期のカリキュラムに示し、発達のつながりを表している。また、幼保のカリキュラムには「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して記載している。さらに、5歳児も1年生も1年間を大きく3期ずつに分け、それぞれの期の発達を意識しながら、実際の活動で見られる姿や教師の関わり、環境のポイントが示されている。

国研の研究時の既存のカリキュラムが基盤

発達のつながりを意識

教師のかかわりと環境

地域の幼保に広げる

Ｂブロック５歳児

		4月5月 6月7月8月	9月10月11月12月	1月2月3月
ねらい		【新しい環境に安心、年長になった喜びと自覚】 友達と関わって遊ぶ中で、思いを出し合いながら遊ぶことを楽しむ。 年長児になった喜びを感じ、自覚をもち、生活を進めようとする。	【遊び、友達の広がり、目的の共有】 自分のめあてや友達と共通のめあてをもったり、遊びを進めたりすることを楽しむ 小学生との交流を通して、小学校への憧れや進学への期待を感じる	【皆で楽しむ満足感、小学校への期待】 共通の目的をもって協働して遊びを進め、満足感を味わう。 自分や友達の成長を感じ、１年生になる期待をもつ
内　容		【生活】新しい環境での生活の仕方がわかり、安心して園生活を楽しむ 【友達】年長児になった自覚をもち、異年齢児とのふれあいや関わりを楽しむ。 気の合う友達と思いや考えを伝えあい、共通の目的をもって遊ぶ楽しさを味わう 友達とルールを考えたり、守ったりしてルールのある遊びを楽しむ	【生活】自分の思いや考えを言葉で伝え、クラスで話し合い、遊びを進める楽しさを味わう 【友達】友達と共通のめあてをもち、力を合わせたり、役割を分担したりして遊ぶことを楽しむ。	【生活】幼稚園生活を振り返ったり、年中児に生活を引き継いだりして成長を自覚し、自信と期待をもって修了する 【友達】友達と共通の目的に向かって力を合わせて遊びに取り組み、達成感や充実感を味わう。
連携	学校	教員同士で幼小連携の趣旨などについて共有し、交流計画を考える。	小学校のフェスティバルに参加し小学生との関りを楽しむことができる様に小学校教員と連携をとる	安心して進学することができるように一人一人の育ちを共有すると共に小学校との連携について伝える。
	家庭	家庭訪問や懇談会で保護者の思いや子どもの家庭での過ごし方などを把握し、幼稚園での遊びやかかわりに生かす。	子ども同士のかかわりの深まりとともに思いのぶつかり合いなどもみられるが、学びや成長につながることを伝え、理解につなげる。	一人一人の子どものよさや育ち、学びを伝える連絡会を進学先の各小学校と行う。
すすんで学ぶ	幼児	身近な環境に興味をもって関わり、繰り返しやってみようとする 色水などの素材での遊びなどで友達に思いを伝え、繰り返し様々な方法を試しながら遊ぶ。様々な環境に自分からかかわって遊ぶ。【思考力の芽生え】	リレーの遊びなど、どうすればみんなで思いを合わせて遊びを進めていくことができるのか、自分の思いを伝える。【道徳性・規範意識の芽生え】 やりたいことに強い思いをもち、より本物らしくなど、自分のイメージに近づくことができるよう友達と思いや考えを伝え合いながら工夫しようとする。【協同性】	劇ごっこの遊びなど経験を活かして、より自分の思いを実現できるものを工夫してつくったり、友達刺激を受けたことを取り入れながら、試行錯誤したりする。【豊かな感性と表現】 身近な環境に興味をもって関わり、試したり考えたりしようとする
	教師	子供が進める遊びを受け止めながらイメージや思いを実現できるように方向付けや提案をしていく	自分のめあてをもって遊ぶことができるように思いを確かめたり、励ましたり、認めたりして関わる	自分なりに感じたことや考えたことが集団の中で生かされるよう助言したりする。
	環境	今まで経験したことがある材料用具に加え、遊びの様子を見ながら新たなものを考えて出したり、場を作ったりする。	目的をもって製作したり協力して遊んだりできる場や要求に応じられる材料や用具、器具などを用意する。	イメージを膨らませて表現したくなるように絵本や図鑑など子どもの要求に合わせて用意する。
楽しくかかわる	幼児	友達や先生、様々な人・もの・ことに関わろうとする 年長の大積木や巧技台など友達がしたいことを受け入れながら、遊びを進める。【言葉による伝えあい】 動植物の世話など、自然環境にふれ、関わって遊ぶ。【自然との関わり・生命尊重】	運動会の行事や、交流活動などで関わりをもっている１年生や他学年の小学生などに思いを馳せ、心を寄せて遊んだり、楽しさや嬉しさを共有したりする。地域のゲストティチャー（扇子つくり体験、伝統文化体験など）との関わりを楽しむ。【社会生活との関り】	お正月の遊びや楽器遊び,劇ごっこの遊びなどで、これまであまり関わりのなかった友達とも積極的に関わり,同じ目的をもち協力して一緒に遊ぶことを楽しむ。 【数量・図形、文字等への関心・感覚】 さまざまな人・もの・ことと出会い、自分の思いを表現して関わり合おうとする
	教師	教師が一緒に遊びながら一人一人の興味・関心を捉え、信頼関係を気づいていく。	共通の目的に向かって遊びに取り組めるよう相談の場をつくったり振り返ったりする時間をもち、それぞれの思いをつないでいく。	幼稚園生活でいろいろな人との関わりを思い起こし、感謝の気持ちにつながるように投げ掛けたり、思いを受け止めたりする。
	環境	子ども同士がかかわって自分たちで遊びを進めることができるように遊戯室や園庭・校庭などを積極的に活用する。	一年生に親しみをもち一緒に遊ぶ楽しさが感じられるよう、園内外での交流保育の機会を設けたり、必要に応じて手紙などの具体物がつくれるように材料を用意したりする。	カードゲームなど、遊びを通して文字や数量、形や色に興味を持つことができるような場を設ける。
自分でできる	幼児	安心して、自分の思いを十分に出そうとする 自分の思いだけでなく、友達の思いも受け入れながら遊びを楽しんでいくことに満足感を得る。豆ごはんパーティーや身体測定などで年少児や年中児に親しみをもって関わる。【自立心】	運動会の遊びなど継続して遊ぶ中で力を出しきることの満足感を感じ、そのことが自信となり、苦手なこともやってみるなど生活が広がる。【健康な心と体】自分が実現したことを、友達や小学生に認めてもらうことに喜びを感じたり、実現したいことが達成できた満足感を味わったりする。 【社会生活との関り】	クラスのみんなで同じ思いをもち、みんなで満足感や達成感を味わう。【自立心】 力を発揮して実現できたことに自信を感じ、進学への期待や意欲をもつ。【自立心】 安心感をもち、自分でできる喜びを感じ、ありのままの自分を発揮しようとする
	教師	年長児になった喜びに共感し、自分でしようとする姿勢や異年齢児に思いを寄せて自分なりに関わろうとする姿を認める。	たくさんの友達の中で力が発揮できているか、役割分担をしながら遊びを展開できているかを把握し、助言をしたり、認めたりする。	一人一人の力を十分発揮し、クラスの一員としてやり遂げた満足感や達成感が得られるように認めたり、励ましたりする。
	環境	年長の自覚がもてるように、担任間で連携して体重測定やプレゼント渡しなど異年齢児との関わりのきっかけをつくる。	体を十分動かして遊ぶ楽しさが味わえるように運動遊具を配置したり、子どもが遊具や用具を自分たちで出し入れしたり、遊びの場をつくったりできるように場を整えたりする。	進学への安心感と期待感に繋がるよう、一年生を始め小学生との関わりが楽しめるような時間や場を設ける。
個別の支援		友達と関わりを持ちにくい子どもには、思いの橋渡しをしたり、代弁したりして関わりを楽しめるようにする。 友達に認められる嬉しさを感じ、関わって遊ぶ楽しさを感じられるよう、友達に認められる機会を設ける。	クラスみんなでの活動に入りにくい子どもには、その子どもがやりたいことや思いを受け止めクラスに共有したり、楽しんでいる様子を見せたりなど、興味をもてるよう関わる。友達だけで遊びや生活を進めにくい時は仲裁役として一緒に遊びや生活を共にし、思いや考え、イメージの橋渡しをする	進学への不安を感じる子どもには、これまでの成長を大いに認め自信にすると共に、進学への前向きな言葉をかけ、安心できるよう関わる。

Ｂブロック１年生

		４月　　５月頃　　６月　　７月頃　　９月１０月１１月１２月　　１月２月３月
ねらい		【安心】 学校生活に慣れ、安心して登校する。 教師や友達と仲良くなり、安心して学校生活を過ごす。 教師や友達に親しみをもち、安心感のある学校生活を過ごす。 就学前施設で身に付けた力を発揮し、自信をもつ。 【成長】 →集団生活のルールが分かり、集団生活に慣れる。 →クラスや学年、学校が自分の居場所となり、安心して過ごす。 →自分のことが自分ででき、みんなと仲良く学校生活を送る。 →学校生活がほぼ分かり、自信をもって学習や生活に取り組む。 【自立】 →自信をもって小学校生活を送る →自分の成長を振り返り、２年生になる期待をもつ
内　容		【生活】学校での生活の仕方が分かり、安心してすごす。（生活・学習・給食・遊び・当番活動・登下校など） 小学校生活の新たなルールが分かり、安心して自分で取り組もうとする。　→生活の仕方で分かることが増え、より安心することで関わりを広げる。 集団生活のルールが分かり、穏やかな気持ちで過ごすことができる。　→自分のことが自分でできることに自信をもち、新しい環境に自ら働きかけ、関わる。 →やれることは自分でできることを感じ２年生になるという自覚をもつ 【友達】教師や友達と一緒に学校生活を送ることを楽しむ。 知っている友達との関係を大切にし、新たな友達とも関わろうとする。→クラスの友達の名前を覚え、関わりを広げる。 学校の様子が分かり、友達と共に活動することを楽しむ。　→仲の良い友達の輪を広げながら、学習や遊び、生活が充実する。 →みんなで楽しくかかわる中で友達や自分の成長を感じる
連携	園	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえる。　園で慣れ親しんだ歌や手遊び等を取り入れ、楽しみ、安心し、意欲につなげる。　フェスティバルなどを通じて子どもの成長を共育する。 就学前施設の教師から情報を得て、指導に生かす。 就学前施設の教師に小学校での様子（学習・生活）を見てもらい、情報を共有して指導に生かす。
	家庭	不安な状況等は早目に伝えてもらうようあらかじめ話しておく。連絡帳を活用したり、直接話したりして、安心してもらう。　フェスティバルなどを通じて子どもの成長を共育する。 ほめ電話（ほめTel）で、児童の様子を伝えて安心してもらう。
すすんで学ぶ	児童	身近な環境に興味をもって関わり、試したり考えたりする。 自分の見たい・知りたいところに探検する。 身体や感覚を働かせて、思いきり遊ぶ。 就学前施設での経験を生かして、遊んだり学んだりする。 →学校でのはてな？やふしぎ？を見つける。 →自ら友達や環境に興味をもって関わり、遊んだり勉強したりする。 →主体的に自己を発揮しながら学びに向かう。 身近な環境に興味や疑問をもち、自ら学び考えようとする。
	教師	幼児期の発達の特性を知り、児童の意欲が高まるように配慮する。　→生活科を中心に、授業の流れ（しかけ）を工夫する。　→意欲的に遊びや学習に取り組む姿を認め、より主体的な意欲につなげる。 児童の興味・関心をつかみ、主体的に学習（生活）できるようにする。　→生活科を中心に、合科的・関連的な指導の工夫をする。
	環境	学習や生活、遊びのスタイル＆ストーリー（生活習慣・学習習慣・遊びの場・給食の準備や片付けなど）を大切にした環境や一日の流れをつくる。 学習形態を工夫し、共働的に学べるようにする。（グループ机、広いスペースの活用など）　学習に集中できるようにする。（すっきり、はっきり、視覚的）学習のきっかけが生まれるようにする。（しかけ、学びの足跡など）
楽しくかかわる	児童	さまざまな人・もの・ことと出会い、自分の思いを表現して関わり合う。 知っている友達と安心して関わる。　→知っている友達から少しずつ友達の輪を広げる。　→友達が安心の基地になり、生活が充実する。 担任・学年の先生と仲良くなる。　→少しずつ教師や地域の人とも関わり、楽しむ。 友達と挨拶したり、名前を覚えたり、遊んだりすることを喜ぶ。　→なかよしの仲間と活発に遊んだり、みんなで勉強したりする。 互いの思いを出し合い、みんなで頑張ろうとする。
	教師	保育者の関わり方を知り、児童と一緒に遊び、信頼関係を築く。　→全教職員が関わり、信頼関係を築く。　→集団のルールの必要性を伝え、自ら守ろうとする姿を認める。 新しい教師や友達、環境の変化に戸惑う児童に寄り添い、関わる。　→友達関係の様子を見て、子供同士をつなぐ支援をする。　→みんなと関わり、がんばることの楽しさを感じられるようにする。
	環境	教師や友達、他学年の児童、地域の人々と関わりがもてるような環境や機会を意図的に設定する。 （全教職員で一緒に楽しむ・温かく見守る・目線で話を聞く・笑顔で迎えるなど）（他学年児童と集団登校・集会活動・たてわり活動など）（家庭や地域の人々の見守り活動）
自分でできる	児童	安心感をもち、自分でできる喜びを感じ、ありのままの自分を発揮する。 就学前施設園でしていた遊びで遊ぶ。　→少しがんばればできることにチャレンジし、できた喜びを味わう。 就学前施設での経験を話したり、伝えたりする。　→友達のステキを見つけ、伝え合う。 自分でできることは、自分でする。　→自分ががんばったことやできるようになったことを考えていく。 自分の姿を見つめ、頑張りや良さを見つけようとする
	教師	幼児期で身に付けた力を発揮できるようにする。　→下安を表す時期の個人差を受け止め、安心できるように関わる。　→単元の終末のふり返りを大切にする。 １年生になった喜びを受け止めつつ、安心感がもてるように関わる。　→自分でできるようになっていく姿を認める。　→できるようになったこと、ついた力を知らせ、認める。
	環境	見通しをもって生活できるようにする。（１日の流れ・朝の支度の手順・当番などの役割表示）　自分で選択して活動できるようにする。（教室内の遊びコーナー・オープンスペースの活用など） 生活上のきまり等を視覚的に理解できるようにする。（道具箱の整理整頓・靴のそろえ方など）
個別の支援		下安な姿を見せる児童には個別に関わり、安心できるようにする。　できるだけ複数の教員を配置し、個人・学級に目が行き届くようにする。 生活の仕方（トイレ・手洗い等）に戸惑う児童には丁寧に関わる。　支援が必要な児童には、担任を中心に、複数の教員が関わるようにする。 児童の遊びや人間関係を観察し、うまくかかわれない児童には積極的に声かけをして、一緒にグループに入れるようにする。

【Cブロック】中規模小学校とその地域にある公立幼稚園と公営保育所

〈共通の視点〉「望ましい発達の姿」「園で展開される活動/小学校の生活科を中心にした各教科等の単元構成」「安心・安定感を土台にした「つながり」「主体性」（それぞれ『幼児・児童』、『援助・支援』に分化）「連携」（『家庭』『幼保小』に分化）「個別の支援」」

〈概要及び作成プロセス〉小学校区に公立幼稚園と公営保育所がある数少ない地域で、長年の交流が息づいており、連携には具体的な活動が示されるなど、安心・安定感を土台に子どもの育ちをつなぐカリキュラムになっている。「望ましい発達の姿」では、それぞれ1年間を大きく3期に分け、発達のつながりを示している。また、園での活動や小学校の単元構成で書かれている活動には幼保小ともに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して記載しており、幼保小が子どもを見る際の共有の視点としている。地域の特性や保護者の実態から、「家庭との連携」が必須項目であり、丁寧に記載されている。

幼保小での長年の交流が基盤。カリキュラム作成は新規。

「幼児期までに育ってほしい姿」を幼保小共に記載。共有の視点

「家庭との連携」は重要な視点。

〈修正と改善のプロセス〉

・公開保育や公開授業、交流などの前後の話合いや協議、実践事例やホームページで「つながり」「主体性」について出てきた内容をカリキュラムに反映させながら改善を図っている。

・保育所と幼稚園で1学期の活動を振り返ったところ、保育所では食育に対する活動や配慮が多くなり、カリキュラムの「家庭との連携」に追記している。

・小学校でも、実践を重ねる中で、時点修正をしている。「ブロック会議の記録」「実践事例」「焦点児の変容」の資料を中心に架け橋期カリキュラムの修正を試みているところである。

・幼保小の三者が集まっての意見集約及び修正、改善はこれからである。

公開保育・授業、交流・事後研、実践事例等で改善。保幼は共有

小学校も時点修正を試みる記録、実践、焦点児の変容

幼保小の共有はこれから

以下参考例として、幼保小のカリキュラムの時点修正版を提示する

Cブロック5歳児　架け橋期のカリキュラムの時点修正の一例（抜粋）赤字：幼稚園　　青字：保育所

期・月			4・5月	6・7・8月
望ましい発達の姿			安心・安定感	自信・充実
			新しい環境に慣れ、安心・安定感をもって生活する。	身近な環境に関わり、試したり考えたりして遊ぶ。
園・所で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			・生活の場づくり（ロッカー・靴箱など）言・社 ・春の自然に触れる（虫探し・草花摘み）自然　・砂や泥遊び、色水遊び、泡、氷、寒天、新聞紙、片栗粉での遊び、ボディペインティング思・感 ・興味を持ち考えたり試したりする（ツマグロヒョウモンの幼虫・カタツムリ・カブトムシ・亀の飼育）自然　・科学センター見学、ザリガニ釣り自然　・プール健 ・一人一鉢栽培自然　・じゃがいもなど夏野菜の栽培活動自然・数 ・ルールのある運動的な遊び（しっぽとり・帽子取り等）健・道・数 ・当番活動（飼育・**給食の配膳**・昼食時の挨拶）自然・言・社	
安心・安定感を土台に	つながり	幼児	・年長児になったことを喜び、いろいろな友達や先生と関わって遊ぶ楽しさを感じる。 ・新しい保育室に慣れる。 **・友達とイメージを膨らませてドキドキワクワクするような活動を取り入れる。＊1**	・友達と考えを出し合い、相手の思いを分かろうとし、遊びを進めようとする。 ・友達とイメージを広げながら遊んだり、年下の友達と関わったりすることを楽しむ。＊4 ・色水では自然物の特徴を知ったり、色の変化を楽しんだりする。
		援助	・教師も共に遊び、一人一人の思いを受け止め信頼関係を作る＊2。一人一人の安定する場所をつくるとともにそれをつないでいく（大積木の家）。 ・グループやクラスで話し合う機会を持ち、教師が橋渡しをしながら互いの思いや考えを出し合えるようにする。＊3	・一人一人の思いを受け止め、周りの幼児に伝える。時には子どもの気持ちを教師が言語化して子ども同士関われるようにする。＊5 ・友達と相談したり、手伝ったりする機会を設け、友達の考えに触れたり、友達・自分の良さに気づいたりできるようにする＊6
		環境	・マークシールを決めたり、新しい保育室の場に慣れ、自分たちで生活の場を整える気持ちが持てるようにする。 ・安定する場所、遊びの拠点となる場所やものの配置など工夫し、友達が感じられるようにする。	・遊びの振り返りでは、写真や動画を見て、イメージが共有できるようにICT機器を用いる。 ・保育室で炊飯し、ご飯が炊けるにおいやお米の変化に気づけるようにする。
	主体性	幼児	・様々な素材や材料に親しみ、心を開放させて遊ぶ。 ・グループの友達と相談する機会を持ち、動物当番や昼食時の当番をする。	・友達と共通のめあてをもって遊びを進めていく楽しさを感じる。＊7 ・年下の友達など相手の立場に立って言葉をかけて関わろうとする。＊7
		援助	・年長児になった喜びに共感し、自ら活動しようとする意欲を受け止める。 ・遊びの継続性を大事にするため、グループで時差をつけて給食を食べ始められるようにする。	・身近な自然物や生き物と触れ合う機会を多くし、子どもが興味をもったものや疑問に感じたことを追求したり、継続して成長を見たりすることができるようにする。＊8 ・一人一人がめあてを持ち、意欲的に取り組んでやり遂げるよう、自ら動く姿を見守り必要な時を見極めて援助する。＊9
		環境	・見通しをもって生活できるように、絵カードを用い、一日の流れを分かりやすく知らせる。 ・友達と関わりが生まれる場所や遊具を選ぶ。	・意欲を受け止め、めあてが持てるように提案したり、試したり工夫したりできる場と時間を、時には他学級の担任と連携し確保する。

家庭との連携（抜粋）保育所に多くの改善点が見られ、書き込まれている

.弁当箱をクロスに包む。*10
・嫌いなものも少しは食べようとする

・お手伝い活動（調理、布団敷き）をする

・気温に合わせて、自分で服装の調整をする。　・薄着で過ごす。
・暑い時はシャワーを浴びたり汗を拭いたりする。

.生活習慣の自立について保護者と確認し、小学校生活での戸惑いを少なくできるよう、家庭での対応の仕方など保護者と連携する

・展示食とレシピを掲示し、家庭でもいろいろな食材と触れられるようににする

幼保小との連携（抜粋）緑字：幼保共通

・砂場の交流では事前にねらいと環境について共有する。交流しながら迷いがあれば、確認しあう。＊11

〇幼保のカリキュラムでは、互いの修正点を書き込んでいる。
〇修正、改善の根拠となる子どもの姿や事例は、＊１～＊１０として別紙に表している。
例）友達とイメージを膨らませてドキドキワクワクするような活動を取り入れる。＊１
＊１　5歳児魔女の遊び・謎の卵をてんとう虫広場で見つけてから、
幼稚園に魔女がいるというイメージをもって遊ぶ姿（「魔女からの手紙」）
〇幼保小の交流活動の場面では、＊１１として、幼保小交流図工科「すなやつちとなかよし」
・幼稚園のてんとうむし広場の砂場で1年生と幼保の5歳児が一緒に、砂遊びをした。その時、*ひろばの草花を摘んで型抜きをしたケーキに飾っていた子どもがいた。その行動をどこまで認めてよいのか、立場が違えば捉え方が違ってくるかもしれないので*、活動のねらいや予想される姿を事前に話し合うことが大事だと気付いた。
（実践事例）と書き込まれており、その活動の実践事例がある。

具体的な子どもの姿の捉え方を幼保小で話し合うことが学びをつなぐ相互理解に！！

ともに話し合う時間が取りにくい就学前施設同士であれば、共通事項のみの改善点を書き込むだけでなく、互いの保育の改善点を書き込むことで、互いを知る・違いを知る等、保育の改善につながるのではないか。架け橋期のカリキュラムの存在意義ともいえるのではないか。

Ｃブロック1年生　架け橋期のカリキュラムの時点修正の一例（抜粋）

期・月			4	5
望ましい発達の姿			安心・安定感 新しい環境（学校の様子や新しい人間関係など）に慣れ，安心・安定感をもって学校生活を送る。	
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			学校生活の仕方を知る。（登下校・生活・学習・遊び・当番・給食・掃除など） 【自立心】【協同性】【社会生活との関り】 学校生活・集団生活のルールやマナーを知る。【道徳性・規範意識の芽生え】	みんなとなかよし・学校探検・【協同性】【社会生活との関り】 なかよしいっぱい大作戦【社会生活との関り】【言葉による伝え合い】 一年生を迎える会【社会生活との関り】【豊かな感性と表現】
安心・安定感を育む	つながり	児童	友だちにあいさつしたり自己紹介をしたりしお互いに興味を持つ。 幼稚園や保育所で経験した遊びを一緒に楽しむ。	
		支援	家庭や幼稚園・保育所での様子を知り、遊びや会話を通して信頼関係を 児童の顔と名前を覚える。 笑顔でゆっくりと肯定的な言葉で話し、あ 幼稚園や保育所で経験した遊び・読み聞かせ・歌などを取り入れる。 門や教室で、笑顔で明るく名前を呼んで迎える。 環境の変化に戸惑う児童に寄り添い、家庭と連絡を取りながらかかわる。	教師も一緒に楽しむことで，緊張感を和らげる。 直接的に触れ合って、体を動かして遊ぶことなど毎日ワクワクするような活動を取り入れ、 安心してつながりをもつ機会をつくる。 小さなことでもほめ、がんばりを保護者に伝える。保護者の頑張りも認め、評価する。 否定的に言わない。言葉遣いに気を付け、ゆっくりと話す。
		環境	学校教育目標を伝える。　学級目標を設定し、伝える。 幼稚園や保育所での経験を生かした学習や遊びの場を設定する。	
	主体性	児童	幼稚園や保育所での経験を生か	担任に自分の思いを伝える。
		支援	児童の特性を知り、児童の意 児童の興味・関心をつかみ、 児童の実態に合わせて、柔軟	ストーリー性をもたせるなどの工夫をすることでスムーズに取り組むことができる。 児童の集中力を考慮し、学習・活動を２０分程度毎のまとまりで考える。
		環境	絵や写真などの視覚的な指示 一日の生活や学習の基本的な	約束や進め方などは、伝え共有した後に自分で確認できるように掲示等の工夫を行う。（そうじスタート）
	支援・連携	家庭	見通し・計画性をもってもら 児童の情報を家庭から得たり （学校だより・学級通信・授	家庭との連絡ツールを工夫する。（親と交換日記など） （家庭訪問） 設定してある家庭訪問だけでなく、保護者に連絡や伝えた　ように する。
		幼保小	幼保小連絡会で新入学児童の情報を交流する。　幼保顔合わせ（幼保） ５歳児に担任だった先生に授業参観してもらい１年生での様子を知ってもらう。	にこにこタイム顔合せ（幼保小）…砂場での交流活動を実施し、幼保小の交流を図る 幼稚園ごみゼロ活動（幼小）…小学校不参加

小学校では、単元や行事が書かれていく。子どもに見られるであろう「10の姿」を明記し、つながりを意識。

子どもの実態に合わせて、意識して言葉のかけ方を行ったため追記

子どもに自己肯定感を持たせ、かつ、保護者への努力も認めつつ、信頼関係を得ていくようにしたため、追記。

幼保小がそれぞれカリキュラムマネジメントをしつつ、３者が共有し、理解しながら進めていくことが重要。
その時間の確保が大きな課題。

今年度復活させた交流活動。
実践事例で詳しく記載。

すなとなかよし（図工科）

1年生のねらい
・幼児と一緒に活動することを楽しむ。
・山や川を作ったり、型押しをしたりして、砂に触れることを楽しむ。

5歳児のねらい
・1年生や他園の人と出会い、親しみをもつ。
・砂の感触を楽しみ、砂に触れて遊ぶことを十分に楽しむ。

幼保小での事前の打ち合わせ（ねらいをそれぞれどうもつか等）や活動後の振り返りを子どもの具体的な姿を通して丁寧に行うことが架け橋期の子どもの発達の理解や教師同士の考えの相違点の理解にもつながり、自らの指導（環境づくりや援助、子どもの姿の読み取り等）の在り方の変容にもつながることがわかった。
（実践事例より抜粋）

架け橋期のカリキュラム　実践事例…5歳児への取組（半日入学と交流）

半日入学

（令和4年11月）

安心

幼児教育の考え方を
取り入れる

→子どもに安心感が生まれる
↓
入学への期待感が高まる

生活科 「もうすぐみんな2年生」

笑顔

教科書
絵本読み聞かせ

タブレットの体験

ひらがなをなぞる

ランリュック体験

交流本番！　年長児に一生懸命伝えます。
年長さんも真剣に受け止めます。

架け橋期のカリキュラム　実践事例…令和5年度の入学式と4月の教室

入 学 式

式までは遊んで待ちます

お話は床の上で

4月当初の教室

教室の空きスペースや廊下には1年生が遊べる道具や用具がたくさんあります。

- 慣れ親しんだ活動
- わかりやすい環境づくり
- 先生や学校の人と関わる

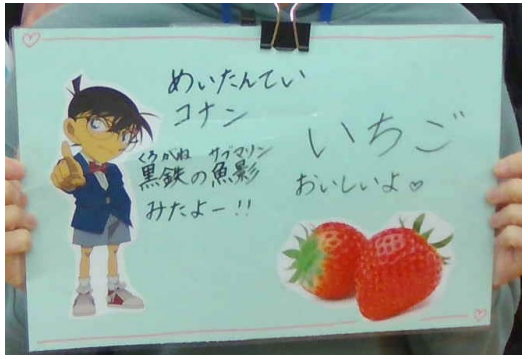
→ 学校が楽しいと思える

↓

子どもに安心感が生まれる

安心

みんなで名刺を交換しよう



先生方の名刺

工夫した教職員の名刺によって、1年生は教職員に興味をもち、たくさんの教職員に積極的に関わろうとする姿が，いたるところで見られた。

たくさんの教職員と名刺交換

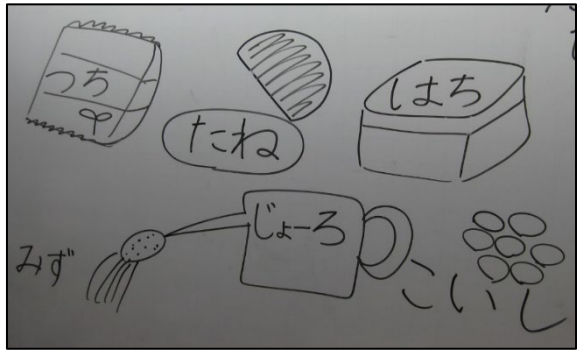
なかよし　いっぱい　だいさくせん

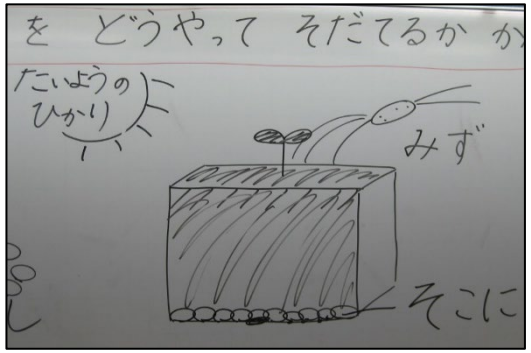
様々な魅力的な材料が用意されていました

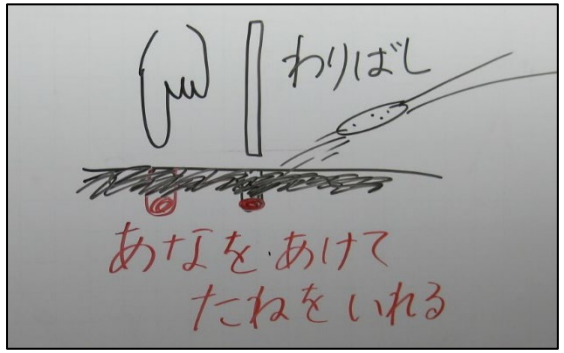
看板づくりをしています。
「いつもみまもってくれてありがとう」の文字が

見守り隊の旗づくりチームです。
自分の知っている好きな見守り隊の人の顔を描いています。

生活科「さかせたいな わたしのはな」







栽培に「必要なもの」「育て方」「植え方」などを、子どもたちの意見を基に進めました。

「葉っぱの形は蝶々みたい」

「どっちが長いか比べよう」

「お隣の植木鉢にお邪魔しますになってしまって困っています。」

「そうだ！2年生のと同じもの(支柱)を立てたらいい」

見る、触るから始まる思考。 友達との共有から問題解決

架け橋期のカリキュラム　教師の指導・援助の変化…就学前施設（主に公立幼稚園・保育所）

・小学校の教育方針や小学校教育の変化の認識
・幼稚園の教育目標を小学校の教育目標と関連付け
　→教師の指導がより**幼小の接続を意識したものへと変化**
・小学校授業についての**合同協議**の実施
　→子どものことを一緒に考えていくという姿勢
　→小学校の授業改善への熱い思いに、幼稚園教員も大変刺激
・小学校以降の教育の見通しをもった保育の展開
　生活科・図画工作科の参観や教科書の閲覧
　　→**幼小の共通点**に気づき、**ねらい**や**経験のさせ方**を**意識**
・小学校への幼児教育や子どもの発達についての**発信力の向上**（園内研修の充実）
・**他の就学前施設**の**保育参観**

幼児教育・保育の改善

架け橋期のカリキュラム　教師の指導・援助の変化…小学校

・様々な保育観に触れ、保育の実際について**視野の拡大**
・**教職員の意識改革**
→「ゼロからのスタート」からの脱却
→「何もできない1年生」としての対応からの意識変化
→幼児期の学びをつなげていこうという考え方
→しっかりとした下地の上での1年生のスタートを実感
↓
〇教師主導の受け身の授業から、**子ども主体の能動的な学び**
〇児童が安心感を持ち、自分の力で学校生活を送ることを大切にした支援
〇幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた**カリキュラム改善**

小学校教育の改善・授業改善

架け橋期のカリキュラム　子どもの学びの変化（幼稚園）

・小学生への憧れによる**興味の広がりと意欲の向上**
・小学校進学に対する**不安の解消**（保護者も）
・架け橋期に限らず、3歳児から6年生までの計画的・日常的な交流によってもたらされる変容が大きい
・幼保小が交流することで、他園の新しい友達や小学生と関わり
・年長者をまねることの楽しさ・受ける刺激は大きく学びになっている

保護者の話
「幼稚園と小学校の先生方がつながっているっていうのがすごく安心」
「半日入学の時はずっと泣いていたので入学を心配していたが、この交流をきっかけに小学校に行くのが楽しみになった」

小学校入学への不安解消

架け橋期のカリキュラム　子どもの学びの変化（小学校）

・遊びを中心にした環境、学習活動の実践
・子ども達への関わり…幼児期の学びを聞き、受け入れる、認める

↓

同じ園からの友達がいない1年生も、「朝のあそびタイム」ですぐに仲よし
安心して登校し、自分を発揮する姿
友達と楽しみながら活動する姿
緊張しすぎることなく学習に向かう姿

・5歳児との交流→小学生になった自覚・自信、相手意識→主体的な学び・深い学び

〇言われたことだけを行動する姿から、**自分で考えて自分で行動する姿**
〇**自信、自己肯定感、自己存在感が高まり**、生き生きと自分を表現
〇自分で問題を発見し、どうすれば解決できるかを考える**必要感のある学び**

小学校生活への安心感・自信

今後の展望について

【R5】

〇各関係団体（※）において集約した連携・接続に係る取組に関する意見を全体会議（架け橋会議）で共有・協議し、今後の取組や方向性を検討予定。

※私立幼稚園協会、保育園連盟、日本保育協会、小学校PTA連絡協議会、幼稚園PTA連絡協議会、市営保育所長会、小学校長会、市立幼稚園長会

〇令和6年度からの「幼保小連携・接続主任」全市立幼小への設置に向け、その役割・成果・課題等を研究ブロックや実践研究校の取組から検証する。

〇令和5年度から市立幼小の教育指導計画書において「園・学校経営方針」に幼保小の連携・接続の具体的取組を記載することとしており、今年度の実施状況を調査し、今後の取組の参考とする。

〇架け橋期の教育の重要性を知ってもらうため、乳幼児・小学生の保護者等を対象に講演会を実施予定（R6.1.20）

〇幼保小接続（架け橋プログラム）研修会の実施（R4～、今後も毎年実施）

今後の展望について

【R6】
〇小学校・就学前施設の連携窓口リストの作成（毎年更新）
〇「幼保小連携・接続主任」を全市立幼小に設置
　※「幼保小連携・接続主任」を対象とした研修の実施
〇架け橋プログラムの手引書の作成（R6.11発行予定）
　※連携・接続やカリキュラムのモデル、年間計画のモデル等を提示する。
　手引書を参考に、R7以降、これまでのスタートカリキュラムも踏まえ、
　全市立小学校で幼保との連携・接続に取り組む。
〇京都市架け橋シンポジウム（仮称）の実施（R7.2頃実施予定）

【R7以降】
〇全市立小学校で幼保との連携・接続に取り組む
〇情報発信や研修の充実を図り、各校園所における取組をサポートする